





# 国際的シンポジウム初開催

アジアの市民は、SNSをどう使って政治や社会に参加しているのか……。日本や中国、台湾、香港などの研究者が一堂に介した「ソーシャルメディアと市民参加に関する東京シンポジウム」が6月28日、筑波大学東京キャンパス文京校舎で開かれた。SNSを多用した米大統領選やアラブの春などを対象に、欧米ではSNSによる市民の政治・社会参加の研究が進むが、アジアを研究対象にした国際的シンポジウムは初めて。

シンポジウムは海後宗男准教授(人社会系)が企画。研究者9人が発表を行った。

その中でマカオの研究者は昨年5月、公務員の年金法案に抗議して数千人が参加したデモを報告された。



SNSでの市民の政治参加を議論した東京シンポジウム(6月28日、文京校舎で)

加した現地学を分析。主に高学歴の若者がフェイスブックを使い、デモを組織した経緯を報告した。また香港で昨年9〜12月、新選挙制度に反対した市民が行ったデモを分析した研究者も「SNSを通じて、デモ参加者に応援メッセージが入りデモが強化された」と指摘、アジアでもSNSによる市民の政治参加が進む実態が報告された。

一方、国立情報学研究所の小林哲郎准教授(社会心理学)は、日本初のネット選挙となった2013年参院選を分析。当時「ネットの効果は限定的」と報じられたが、SNSを選挙などの意見交換に利用した人(有権者の約10%)の間では投票率が約11%高まるなど「ある程度(SNSの)効果があった」と話した。

また、海後准教授は現在「つばは市を進める」オンラインコミュニティを説明。市民がSNSを通じ交流を

進める状況を報告した。参加者の一人、カク・ンジン准教授(ミシガン大)はシンポの意義について「過去、SNSを使った市民参加に関する研究の中心は欧米だったが、アジアでも重要な研究は進んでいる。これまで研究者同士の間で交流の機会は限られていたが、今回のシンポは今後日本が拠点となって研究を発信する重要な契機だ」と話している。

海後准教授によると、来年6月には、国際コミュニケーション学会が福岡市で開催される予定。同准教授らは同学会に向け、さらに研究や研究者交流を深めたい意向だ。

# 過疎地の活性化事業

## コンパクトシティ目指す

大澤教授ら

筑波大学は大澤義明教授(シス情系)を中心に、過疎化や高齢化が進む北海道の津別町と連携し「まちなか再生事業」に今年4月から取り組んでいる。町内のインフラ稼働率などを調査し、町民と共に街づくりを



津別町は北海道東部の内陸にあり、東京都の約三分の一に当たる広い面積を有する。1960年に約1万6000人だった人口は約5000人に減少し、住民の約4割が65歳以上。町の中心地が「シャッター商店街」となるなど深刻な

過疎化が進んでいる。一方で、津別町はスポーツの合宿地として知られ、新たな運動施設や宿泊施設などの整備を進めている。だが夏以外は道外からの来訪者は少なく、「有効に活用されていないものも多し」と大澤教授は話す。

問題を受け、津別町では外部の視点を取り入れたいと大澤との連携を模索。筑波大のラグビー部が同町の合宿所を長年利用している縁で、佐藤多一町長に協力を打診されたラグビー部部長の中川昭教授(体育系)が、都市計画を専門とする大澤教授を仲介した。

筑波大が「まちなか再生事業」に取り組むのは今年から3年間。町の中心地に住居や医療・商業施設などを集約して効率化し、地域を活性化させる「コンパクトシティ」を目指す。

事業の一つとして、街づくりのノウハウを伝えるため、筑波大教員の講演やワークショップをすでにやっている。住民自身で町の再生を継続できるように実践的な内容にしており、今後も定期的に開催する。

今夏には町役場にシステム情報学工学研究科社会学専攻の学生が常駐し、空き家の数や交通量などを調査しながら、町民と交流すること(街づくり)への意識の向上を狙う。

# SNSによる政治・社会参加 アジアでも研究進む

## 助教を海外に派遣

### 最先端の環境で研究

若手研究者である助教を海外に送り、最先端の研究に取り組み、最先端の研究独自の制度「国際テニエアトラック」で派遣された研究者が活躍している。6月22日には同制度でテキサス大学サウスウェスタンメデイカルセンターに派遣された木村航助教(生命領域学際研究センター)が同大

の研究者と共同執筆した論文が、科学雑誌「ネイチャー」のウェブ版に掲載されている。制度を企画した馬場忠教授(生環系)学長特別補佐は「制度を利用しての研究者が、将来の筑波大の研究を支えてほしい」と期待している。

同制度は1年前にスタート。現在、生環系、人社会系、人間系などから21人の助教が海外に派遣されている。多くの場合、日本の大学では助教は任期付きで雇われるが、その間研究以外の仕事が多く、研究を進めたい海外に出て研究することを目指す。こうした状況の改善のため始まった同制度では、2〜4年間筑波大の支援を受けながら海外の最

# 「お米スイーツはいかが？」



## 大学は美味しい!!フェア



米使用のケーキ「ライス・シニアスト」

全国の大学が、研究や地元の特産物を生かした食品を開発・販売している。農産物の方針と、米の特産を生かした新たな食品の開発を行う北村教授の研究が一致し、今回高島屋(東京都渋谷区)で開催された。筑波大学からは北村豊教授(生環系)の食品バイオマス工学研究室が、米を利用したスイーツや飲み物を出品。6日間で計2500個以上を販売した。

同研究室が出品したのは、米を使い独特のもちもち感を出したプリン「プディングデザート」と、(つくばは市下岩崎)で、シニアストはうらら洋菓子店(東京都台東区)で販売している。(森脇慎一 写真も。12面に関連写真)

細かく砕いた米と水を混ぜて作った飲み物「ライスミルク」の3種。米の加工食品は「クセがなく、さまざまな味にアレンジできる」(北村教授)ことが魅力。アレルギー物質を使っていないのも特徴だ。地域との連携にもこだわった。今回使った米は、つくばみらい市の農業会社「農創」が作った。農創は米の生産だけでなく、米を使った加工食品の製造を目標としている。農産物の方針と、米の特産を生かした新たな食品の開発を行う北村教授の研究が一致し、今回の製品販売に至ったという。

北村教授は「新たな米の食べ方として、多くの人に親しまれたい」と話している。来年のフェアには、ライスミルクを使った日本酒を作りたい」と話した。

# 催事

## まつりつくば2015スポーツパーク

8月22(土)〜23(日)につくばエキスポセンター(つくば市吾妻)の広場を中心に開催される。この企画は「まつりつくば2015」と同時開催。つくばエキスポセンター内の正面広場の特設バスケットコートでバスケットボールの大会や、来場者が無料で遊べる「スケートボード体験ブース」などが行われる予定。

問い合わせ 〓 sawanoni@waisports.com

## 筑波大学オリエンテーリング大会

9月23日(水)に筑波大学筑波キャンパス内で開催される。集合は筑波大中央体育館体操場。オリエンテーリングは、地図とコンパスを持って、地図内の決められた地点を順に回り、そのゴールタイムを競うスポーツ。

午前8時に開場。午前の部は10時、午後の部は1時にそれぞれ開始。

競技者が参加する大会とは別に、午後から筑波大生や職員、つくば市民向けにオリエンテーリングの体験会を行う。体験会の参加費は無料。

問い合わせ 〓 tsukuba.comp35th@gmail.com  
詳細 〓 http://tsukubacom35th.wix.com/tsukuba35th (大会ホームページ)

# アプリで自動的に日記

## 位置情報や写真使い

筑波大学大学院システム情報工学研究科計算知能・マルチメディア研究室の学生らは、iPhoneで撮った写真や位置情報を自動的に日記に組み込んで自動的に日記を作成するアプリ「Four Diary」を開発した。5月20日から配信を開始した。

「Four Diary」は、iPhoneのGPS機能に基づき利用者が滞在している場所を推測し、撮った写真や、その地点で撮影されたネット上の写真を組み合わせて保存する。利用者がiPhoneを持ち歩きながら自動的に日記の出来事をまとめられるのが魅力だ。

更に、ツイッターアカウントなどと連携し、利用者の投稿に関連するニュースや、趣味・嗜好に合った近隣のおすすめの場所など、利用者が知りたい情報を予測する。この機能を使えば、見知らぬ土地の有名な観光

スポットや、住み慣れた土地のあまり知られていないの改善や追加を行うという。計算知能・マルチメディア研究室の延原准教授(シス情系)は「現在のアプリはiPhoneのiOS9以降しか対応していないが、将来的にはAndroid版のアプリも開発したい」と話した。(徳永翼 〓 日本語 白文化学類1年)



(上)日記アプリのメイン画面、(下)アプリのダウンロードサイトのQRコード









# 記者の声



林健太郎

筑波大学で関係者に取材した。沖縄県出身の安里香菜さん(比文3年)の出身地は普天間基地から約30

## 沖縄の基地負担軽減へ 日米地位協定の改定を

沖繩県・普天間基地(宜野湾市)の辺野古沖(名護市)への移設を進める政府と、移転に反対する沖繩県の翁長雄志知事との対立が深まっている。一連のニュースを見ていて、私は市街地にある普天間基地の危険性をなくす意味でも、移設は容認したい気持ちになった。だがその場合の条件は沖繩の負担を軽減するため、日米地位協定を改定することだと思

離れた北中城村。米軍の飛行ルートだ。その安里さんの話の中で最も印象的だったのは、現地での生活が危険と隣り合わせだということだ。安里さんは中学生の時に学校で、超低空飛行の米軍機に遭

を受けた。普天間基地の7割以上が駐留する現状を問題視し、「沖繩に基地が集中しているのは軍事的にも負担の観点からも不合理で、本土も基地を受け入れるべきだ」とも語る。また安里さんも「日本全体で基地の

受け入れを真剣に検討してほしい」と話した。だが現在、日本国内で普天間基地の受け入れを表明する自治体は皆無だ。09年に県外移設を訴えた鳩山由紀夫元首相も、多くの候補地を検討したがいずれも地元

ら離れている。「普天間の固定化を避ける意味でも辺野古移設は唯一の選択肢ではないか。ただ一つ条件がある。移設を認める場合は、日米地位協定を改定すべきだ。現在の協定では、米

兵が起した犯罪は基地外であっても、起訴されなければ容疑者の身柄を日本が拘束できない。また、米軍機は航空法の規制に縛られず超低空飛行も可能だ。安里さんら沖繩県民が毎日のように感じる米軍機の危険性。これらを考

えると、日米地位協定の改定は難題だが、日本政府には協定の改定に尽力すべきだと思

# 筑波時評

昨年7月、教育再生実行会議は、実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化を求めた。これを受けて文部科学省内に設置された「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化に関する有識者会議」は、今年3月「審議の

まとめ」を公表し、「新たな高等教育機関」のあり方の基本方針を打ち出した。

## 「職業学位」の創設を

## 文系学部改廃こそ警戒



藤田 晃之 教授(キャリア教育) 人間系・教授。筑波大学大学院単位取得退学、博士(教育学)。同大准教授、国立教育政策研究所総括研究官などを経て、2013年から現職。主著に「キャリア教育基礎論」(実業之日本社)など。

の導入を巡っては、「すでに役に立つものはすでに役に立たなくなる」という自明の理を無視した拙速な提言であり、学術研究の発展という使命を担ってきた大学を中核とする高等教育機関としてふさわしくない」との批

判も見られる。しかし現時点においては、新たな機関の導入について目くじらを立てることは得策ではないように思われる。その主な理由は、次の2点に集約できる。まず、今回の「審議のまとめ」は、学術研究の場である

士などのほかに、それに相当するレベルの「職業学位」も視野に収めて今後の検討が必要であると明示されている。今回の「新たな高等教育機関」の導入の動きは、これまで多様な職業教育を提供しながら、「1条

今後、私たち大学人は、国際標準となっている「職業学位」の創設を求め、その学位の授与機関としての「新たな高等教育機関」を迎え、図り得る連携や協力の方法を探ることに力を注ぐべきだ

「文2年・女性」 投票年齢が下がって何が悪いと思

「文1年・男性」 今の日本は少子化が進んでいると思

# 反射鏡

## 選挙権年齢引き下げ

「シルバー民主主義」という言葉が話題だ。少子高齢化や若者の投票率低下に伴い、高齢者に配慮した政策が優先的に行われている現代の政治を皮肉った言葉だが、政府はこの現状を打開すべく6月17日に公職選挙法を改正し、投票年齢を18歳以上に引き下げた。若者の投票率が増加する期待されているが、筑波大学生はどのように考えているのか。中央図書館周辺と第一エリア食堂で聞いた。油布夏夏(人文3年)、加藤未悠(社会学類1年)、山野辺拓実(同2年)

「社会学類1年・男性」 投票年齢を引き下げたとしても、18歳や19歳の人が投票に行くとは限らない。もっとわかりやすく報道し、候補者が若者向けの政策を打ち立てなければ、若者の発信すれば若者も政治に興味を持つのではないかと

「社会学類1年・男性」 18歳から投票できるようになったのなら、高校が授業の一環として生徒を投票所に行かせれば、確実に投票率は上がる。教育としての投票という方法があっても良いと思

「社会学類1年・女性」 投票率自体は下がるかも知れないが、18歳でも20歳でも判断力は大差はないと思うので、18歳で選挙に行きたい人がいるなら制度を変えても良いと思

## 海と山どっちが好き?

もうすぐ夏休み。家族や友人とどこかに出かける計画を立てている人も多いだろう。この時期には「西の富士、東の筑波」と称される日本百景の一つ、筑波山がある。また、県内には「快水浴場百選」に選ばれた大洗サンビーチなど、多くの海水浴場がある。筑波大学生には山好きが多いのか、それとも海好きが多いのか。中央図書館前で聞いた。(山本勇太(社会学類1年)、田中開(教育学類2年)、深作歩美(生物資源学類2年)

「社会学類1年・女性」 てこそ楽しいが、登るまでが大変。海なら浜辺から景色を眺めたい。 「社会学類1年・女性」 磯のにおいが嫌いなので、山の方が好き。筑波山は海の方が好き。海がないので、近々両親と登る

「社会学類1年・女性」 山の方が好き。鳥類や植物を観察するのが好きだから。筑波山に登ったことがないので、近々両親と登る

「社会学類1年・男性」 山の方が好き。泳ぐのがうまくないので、海では浜辺で遊ぶことしかできないが、山なら風景を見ながら歩くだけでも楽しめる



イラスト=姉崎信(心理学類3年)



# 祭 第41回宿舎祭 笑顔あふれた2日間

デザイン=徳永翼(日本語・日本文化学類1年)、加藤未悠、小宮山瑛生、山本勇太(社会学類1年)、姉崎信(心理学類3年)

第41回宿舎祭(やどかり祭)が5月29・30日に平砂学生宿舎周辺で行われた。前夜祭は悪天候だったが、本祭は天気も回復。真夏の中、会場は大勢の人でにぎわった。活気あふれる2日間を本紙記者が取材した。(佐々木悠里、廣岡里穂、人文学類、徳永翼、橋野朝奈、日本語・日本文化学類、石川泰行、大西美雨、岡田優太、加藤未悠、小宮山瑛生、山口綾乃、前名裕一、山野拓実、山本勇太、社会学類、田中開、教育学類、中垣音彩、心理学類、栗山菜帆子、障害科学類、齋藤優斗、社会学類)

## 漢祭り

渾身のネタ披露 午後0時10分からパフォーマンス会場で「漢祭り」が開催された。漢祭りは、出場者が3つのお題ごとにパフォーマンスを行い、獲得したポイント数を競い合う企画。今回は3チーム9人が出場した。出場者は、各団体がお笑いのネタを披露する「漢のネタ合戦」や、司会者が出すテーマにどれだけ面白く答えられるかを競う「大喜利」などで自分の面白さをアピールした。



記念撮影の権利を手にし喜ぶ学生=岡田優太撮影

## 前夜祭

29日の午後4時から始まる予定だった前夜祭のオープニングは、あいにくの雨となった。その後雨が止むと、メインステージで野外ライブが開始。会場は熱気に包まれた。ライブで1番手を務めた筑波音楽協会のバンド「Nugaku Priest」のメンバーの



力強く演奏するメンバー=徳永翼撮影

午後9時からは予定通り火文字が行われた。土砂降りの雨の中だったが、火が灯され今年の漢字「宙」が現れると、会場は大きく沸き立った。実行委員会によると、「宙」には「今まで」という意味があり、「伝統を受け継ぎイベントを盛り上げる」という思いが込められているという。

## やどカラ

自慢の歌声響く 午後0時25分から、歌のうまさを競う「やどカラ2015」がメインステージで行われた。予選を勝ち抜いた5人の学生が、さまざまなJ-POPを披露し、多くの観客を魅了した。メインステージは大いに盛り上がり、熱気に包まれた。



「サウダージ」を歌い優勝した松原さん=山本勇太撮影

## 大学生クイズ

頭脳を競う 午後4時45分からメインステージで「大学生クイズ」が行われ、4チーム12人が出場し頭脳を競った。準決勝では漢字の読み方や計算パズルなどが出題され、知識と柔軟な発想力が試された。難易度の高い問題も多く、出場者が見事正解すると会場は大いに盛り



クイズの答えを見せる出場者=田口綾乃撮影

## ゆかたコンテスト

午後7時30分過ぎ、メインステージでは花火の打ち上げと共に、宿舎祭のフィナーレを飾る「ゆかたコンテスト」が開演した。今年のは10の学群・学類が出場し、各団体が選ばれた浴衣が似合う学生「ゆかた嬢」と、その魅力を引き立たせるパフォーマンスが演技を披露した。力の入った演技に会場からは歓声が上がり、宿舎祭の盛り上がりは最高潮となった。

夜の平砂に美人舞う グランプリは、国際総合学類の窪田なぎささん(国総1年)。準グランプリは芸術専門学群の内間あやめさん(芸専1年)。個性派賞は生命環境学群

## 大迫力の御輿に熱狂

各団体の趣向を凝らした御輿やパフォーマンスなど、宿舎祭のWebサイトに掲載が行われた。優勝したのは生物学類。「風の谷の生物資源学類。特にユニークだった団体に贈られる「御輿賞」は芸術専門学群が獲得した。



優勝した生物学類の御輿=佐々木悠里撮影



上=国際総合学類のパフォーマンス、右下=特製の浴衣を着て舞う内間さん=山野拓実撮影 左下=個性派賞の宮崎さん=岡田優太撮影

の宮崎つぐみさん(生資1年)が選ばれた。2年連続でグランプリを受賞した国際総合学類は、「When I m Go ne」という曲を披露した。窪田さんは一人で曲を熱唱。周りのメンバーも激しい動きやゆったりとした動きを織り交ぜたダンスを見せた。準グランプリの芸術専門学群は、花火大会に見立てたセットを使ったドラマで衣装姿の柔道の投げ技を披露。会場では驚きの声が上がった。宮崎さんは「最初から個性派賞を狙っていた。学類よりも人数の多い学群で出場したのも、日ごろの勉強の成果を生かすことができた」と語った。個性派賞を獲得した生命環境学群の宮崎さんは、浴衣姿で柔道の投げ技を披露。会場では驚きの声が上がった。宮崎さんは「最初から個性派賞を狙っていた。学類よりも人数の多い学群で出場したのも、日ごろの勉強の成果を生かすことができた」と語った。







# 1345人に調査

## 学生発の労組悩みに応対

「ブラックバイトユニオン」は、学業に配慮せず、学生を酷使するブラックバイトに対抗するため、昨年8月に全国の大学生と大学院生で結成した労働組合。活動内容はブラックバイトに悩む学生からの相談の対応、ブラックバイトに関する情報の発信、労働法

### ブラックバイトチェックシート

- 賃金の計算が1分単位ではない
- 売り上げのノルマなどを課されている
- バイトを減らす理由として、「試験勉強」は認められない
- 休憩はとれずたりとれなかったり
- 実際の労働条件が、募集の際に提示されたものと違った
- 労働条件を裏面で渡されなかった
- アルバイトの上司・先輩から暴言・暴力・嫌がらせを受けた
- アルバイト間で暴言・暴力・嫌がらせを受けた
- シフトや勤務日数、勤務時間を一方的に減らされた
- 希望していないシフトに入れられた
- 商品やサービスの買い取りを強要された
- ミスをした分を支払われた
- 準備や片付けの時間に賃金が支払われなかった
- 仕事が延びても残業代が時間通り支払われなかった
- 就業規則がいつでも確認できるようにない
- 賃金が一方的に引き下げられた
- 賃金が毎月決まった日に支払われなかった
- 残業代が割増賃金ではなかった
- 給与明細書がもらえなかった(パソコンで確認できる場合を除く)
- 1日に6時間を超えて働いても休憩時間がもらえなかった
- 仕事上のケガの治療費を自己負担させられた

「ブラックバイトユニオン」サイト内の「ブラックバイトチェックシート」

指導塾のユニオンも立ち上げたが、既に100人以上の相談が寄せられている。相談員は、相談員となる。相談員は、弁護士や大学教授から労働法などを教わり相談の参考にしていくという。

同ユニオンの事務局長を務める坂倉平さんによると、最近は個別指導塾でバイトする学生からの相談が圧倒的に多いという。これを受け、今年6月から個別

「個別指導塾はほとんど大学生によって成り立っており、決して良い労働条件ではない」と坂倉さんは語る。学生がブラックバイトを継続してしまう原因として、坂倉さんは「個別指導塾に限らず、サービス産業の多くの企業ではコスト削減のため正社員が極端に少なく、ほとんどバイトの学

## 視点

今回のアンケート調査結果で、筑波大学の4人に1人がいわゆる「ブラックバイト」の特徴を持つバイトを経験していることが明らかになった。

学生の半分はあくまでも学業だ。だがアンケートでは、バイトが学業に悪影響を与えていると答えた人が一定数いた。また、取材で過酷な環境でバイトをしていても、バイトに満足している学生がいることが分かった。学生の半分である

## 大学でも対策を

「被雇用者としての権利を意図し、バイトにとられすぎないようにすることが大切だ」と語った。

## 手紙

能狂言は室町時代より続いている、世界最古の伝承演劇です。今では世界無形遺産にも指定され、日本を代表する演劇の一つとなりました。

## 筑波自然図鑑

### ◇ゴマダラカミキリ◇



撮影地=一の矢学生宿舎

夏、建物の明かりにたくさんの虫が飛んでくる。写真のゴマダラカミキリも、夏の灯火に飛んできた虫だ。ゴマダラカミキリは、黒に白のまだら模様が綺麗なカミキリムシ。しかし彼らは、ヤナギやミカ

筑波大学附属病院の陽子線医学利用研究センターでは、体への負担が少ない「陽子線」によるがんの治療を行っている。がんの治療には主にエクス線が利用されるが、エクス線は正常な臓器も傷つけてしまう特性があり、がんの部位によっては副作用が強く出てしまうケースもあった。陽子線治療はこれらを最小限にすることができ、患者の生活を保ちながら治療できるため、がん患者のニーズに合う治療法として注目されている。



陽子線治療は、水素の原子核である陽子を「加速器」で一気に光速の約60%まで加速した陽子線を用いて治療を行う。筑波大では開学当初から陽子線治療に着目し、1983年には体の深部にあるがんに対する臨床研究を世界に先駆け

### 陽子線医学利用研究センター

## 陽子線でがん治療 体への負担減らす

開始。国内で最も長い歴史を持つ陽子線治療の拠点として、これまでに4000件を超える治療をしてきた。陽子線治療の最大の利点は、がんの病巣をピンポイントで攻撃できることだ。体に照射された陽

子線は狙った深さで止まるため、がんの病巣以外に傷つけずに治療できる。体への負担が少なく、通院での治療も可能だ。だが、陽子線治療を行うまでの過程はかなりの複雑だ。がんの病巣だけを狙う

生物学的な影響を考慮する放射線生物学の教員も治療に参加してきた。その一人、同センター医学物理学グループの榮武二教授(医学部医学科)は「さまざまな分野の研究者が連携し患者にとって最適な治療法を考え、実行し



陽子線治療の様子=陽子線医学利用研究センター提供

## 深い学び 人生の支えに

「何をどうとらえようか」と思ってもいいけれど、本「から始まります。時には一行のせりふに2時間かけて稽古することもあります。しかも



和泉流狂言師 山下浩一郎さん

しかし、能狂言の大成者である世阿弥は「よき劫の住して、悪き劫になる所を用心すべし」という言葉を残しています。これは「良いときと悪いときを区別し、常に努力して積み上げたもの

「何をどうとらえようか」と思ってもいいけれど、本「から始まります。時には一行のせりふに2時間かけて稽古することもあります。しかも



# 剣道 世界選手権 竹ノ内 個人戦準優勝



## 得意の「メン」で圧倒

【日本武道館(東京都千代田区)で小野憲司(社会学類2年、写真も。12面に  
関連写真) 剣道の世界選手権が5月29-31日に開催され、56カ国・地域の600  
人以上が腕を競った。日本代表として昨年11月の全日本選手権で史上最年少優勝  
を果たした竹ノ内佑也(体専4年)が出場し、個人戦で準優勝(団体戦で優勝した。

### 個人戦

竹ノ内は予選から順調に  
勝ち続け、相手に一本も取  
られず準決勝に進出。筑波  
大OBの西村英久(熊本県  
警・平成21年度体専卒)と  
対戦した。積極的に攻めに  
出た西村に先にコテを決め  
られたが、竹ノ内は冷静さ  
に、歩も譲らず試合時間の  
5分が過ぎ延長戦に突入。  
開始直後、竹ノ内が固い  
警・平成21年度体専卒)と  
対戦した。積極的に攻めに  
出た西村に先にコテを決め  
られたが、竹ノ内は冷静さ  
に、歩も譲らず試合時間の  
5分が過ぎ延長戦に突入。  
開始直後、竹ノ内が固い



個人戦決勝で攻撃の機会をうかがう竹ノ内(右)  
(5月29日、日本武道館で)

### 記者の目

3年に一度開催される世  
界選手権。今大会は18年ぶ  
りに日本で開催され、日本  
武道館(東京都千代田区)

には「最強国の王者」とい  
う重いつレッシュャーが集  
い、会場は熱気に包まれた。  
1970年に始まった世  
界選手権で、日本剣士は目  
覚ましい戦歴を残している。  
個人戦の歴史優勝は男  
女ともに総なめし、男子団  
体戦では15回、女子団体戦  
では女子大会が始まって以  
来7回全てを制している。  
日本は圧倒的な強さで、武  
士の時代から「剣の文化」  
を培ってきた国としての威  
厳を保ち続けている。

昨年日本選手権で優勝  
した竹ノ内佑也(体専4年)  
には「最強国の王者」とい  
う重いつレッシュャーが集  
い、会場は熱気に包まれた。  
1970年に始まった世  
界選手権で、日本剣士は目  
覚ましい戦歴を残している。  
個人戦の歴史優勝は男  
女ともに総なめし、男子団  
体戦では15回、女子団体戦  
では女子大会が始まって以  
来7回全てを制している。  
日本は圧倒的な強さで、武  
士の時代から「剣の文化」  
を培ってきた国としての威  
厳を保ち続けている。

## 「武士の精神」見た

1000級のウルフ・アロ  
ン(2年)だったが、気迫で  
押し込み、指導士の差で勝  
利した。

順調に勝ち進んだ男子の  
準決勝の相手は、昨大会  
で敗北した日本大。先鋒が  
優勢負けした後は引き分け  
が続いた。だが大将戦で黒  
岩が大将戦で一本勝ちを収  
め、勝利数で並んだ場合  
は一本勝ちが多いチームが  
勝利というルールに従い、  
決勝に進出した。

### 柔道



#### 学生柔道優勝大会

体無差別の団体戦で争  
う全日本学生優勝大会が6  
月27-28日に日本武道館  
(東京都千代田区)で行わ  
れた。男子は決勝で大会7  
連覇中の東海大を破り、国  
立大として初の優勝を果  
した。女子は3位だった。  
優秀選手に男子は永瀬貴規  
(体専4年)と黒岩貴信(同  
4年)が、女子は古屋梓(同  
4年)が選ばれた。

決勝では、先鋒の永瀬が  
小外刈りで技ありを奪い優  
勢勝ちを収め、次鋒の橋高  
海人(同4年)が内股透か  
しで一本勝ちするなど序盤  
はリード。だがその後は東  
海大に追いつかれ、決勝は  
代表戦にもつれ込んだ。筑  
波大の代表は普段81kg級を  
戦う永瀬。東海大の代表は

れコテを打ち込まれ、敗戦。  
世界王者の座は逃した。

### 団体戦

2連覇中の王者として臨  
んだ日本は、予選でカナ  
ダ、スウェーデン、ノル  
ウェーを下し決勝トーナメ  
ントに進出。1回戦でハワ  
イ、2回戦でブラジルに勝  
り、準決勝では前回大会  
(2012年)でベスト4  
だったハンガリーに5-0  
で完勝した。

決勝戦の相手は韓国で、  
前回大会と同じ顔合わせ。  
竹ノ内は先鋒を務め、個人  
戦でベスト4に入ったマン  
ウック・ヤンを相手に激し  
い攻防を繰り広げた。終盤  
コテを狙ったマンウックの  
剣をよけると、メンを鋭く  
叩き込み勝利を決めた。そ  
の後次鋒戦は韓国に取られ  
たが、中堅戦で勝利し再び  
リード。その後の副将戦と  
大将戦はともに引き分け、  
日本は3連覇を達成した。

の勝機をうかがう。今大会  
では日本人に比べ大きく威  
圧感がある外国人との闘い  
が多かったが決して取り乱  
すことなく、逆に気迫で相  
手を圧倒した。堂々とした  
立ち会いに、観客は惜しみ  
なく拍手を送った。

剣道の目的は「人間の形  
成」と言われる。武士は剣  
を使うに当たり、その道理  
を学ぶ「剣道」を通して心  
身の修練を積み、確固た  
る自己の形成を目指した。  
日々の厳しい稽古を乗り越  
え、いかなる状況において  
も冷静さを忘れない自己責  
任の精神を垣間見た。

(小野憲司)

## 関東大学 2部リーグ 3位で折り返し



【流通経済大学サッカー  
場(茨城県龍ケ崎)で森  
脇(社会学類3年、写真  
も)4月から行われている  
関東大学2部リーグ前期が  
終了した。創部史上初めて  
2部リーグを戦っている筑  
波大は7勝3敗1引き分け  
の勝ち点22で3位につけて  
いる。だが昇格圏の2位  
関東学院大までは勝ち点5  
差で、小井土監督(体  
育系・助教)は「重く受け  
止めないといけない結果」  
と語っている。

6月13日に流通経済大  
サッカー場で行われた前期  
最終戦の東洋大戦では、1  
-1で引き分けた。

前半27分、ゴール右で若  
杉拓哉(体専4年)からポ  
ールを受けた北川(同2  
年)がペナルティエリア外  
からポレーシュート。左サ  
イドネットに突き刺し先制  
点を決めた。



ポレーシュートで先制点を決めた北川(6月13日、  
東洋大戦で)

夏の大学日本一を決める総  
理大臣杯(8月7-16日・  
ヤンマースタジアム長居)  
大阪府東住吉区(な)に向  
け「リーグ戦よりも更に  
ハードな試合になる。どう  
やって点を取るのかという  
意識の統一を徹底したい」  
と話した。

蹴球部主将 早川  
J1新潟に加入  
蹴球部主将の早川史哉  
(体専4年)が来季からJ  
1・アルビレックス新潟に  
加入することが発表され  
た。7月8日の記者会見で  
「チームに不可欠で、試合  
の流れを奪えられる選手に  
なるのが目標。子どもたち  
に夢や感動を与えたい」と  
抱負を語った。

早川はアルビレックス新  
潟ユース出身で、筑波大進  
学後は1年生時からレギュ  
ラーとして活躍。現在は主  
にセンターバックを守る  
が、攻撃的なポジションも  
こなせる。170cm、70kg。

記録ファイル  
◆体操 東日本学生選手権  
(5月22-24日、神奈川県  
立体育センター)  
【男子】▽団体総合113  
位▽個人総合 宮地秀享  
(体専3年) 117位▽跳馬  
榊原颯太(同4年) 114  
位、星野力維(同3年) 11  
5位▽平行棒 星野力維 11  
6位▽鉄棒 宮地秀享 113  
位【女子】▽団体総合113  
位▽個人総合 井上和佳  
奈(同2年) 114位▽段違  
い平行棒 井上和佳奈 112  
位、山元加奈子(同2年) 11  
7位▽平均台 井上和佳  
奈 114位、新井菜央(同1  
年) 117位

◆漕艇 全日本重量級選  
手権(5月22-24日、戸田  
漕艇場)  
【男子】▽ダブルスカル  
木村光里(同3年)、小  
原有賀(同2年) 11優勝  
◇東日本選手権(6月27  
-28日、戸田漕艇場)  
【男子】▽シングルスカ  
ル 越智寛太(同4年) 11  
優勝▽舵手無しクワドルフ  
ル 碓合駿寛(体専3年)、  
岡崎俊樹(心理3年)、中  
筋来入(工シス3年)、古  
原将暉(体専1年) 118位  
【女子】▽舵手付クワド  
ルフル 木村光里(同3  
年)、小林愛実(比文3年)、  
小原有賀、棚橋秀美(同1  
年) 115位

## 国立大初の日本一

### 男子 7連覇の東海大破る



国立大初の優勝を果たし喜ぶ部員たち(6  
月28日、日本武道館で) = 柔道部提供

体無差別の団体戦で争  
う全日本学生優勝大会が6  
月27-28日に日本武道館  
(東京都千代田区)で行わ  
れた。男子は決勝で大会7  
連覇中の東海大を破り、国  
立大として初の優勝を果  
した。女子は3位だった。  
優秀選手に男子は永瀬貴規  
(体専4年)と黒岩貴信(同  
4年)が、女子は古屋梓(同  
4年)が選ばれた。

決勝では、先鋒の永瀬が  
小外刈りで技ありを奪い優  
勢勝ちを収め、次鋒の橋高  
海人(同4年)が内股透か  
しで一本勝ちするなど序盤  
はリード。だがその後は東  
海大に追いつかれ、決勝は  
代表戦にもつれ込んだ。筑  
波大の代表は普段81kg級を  
戦う永瀬。東海大の代表は

### ジャパンオープン 2015

## 背泳ぎ勢健闘

### 斎藤僅差で表彰台逃す



表彰台を狙い、前を追う斎藤(手前)(5月23日、  
東京辰巳国際水泳場で)

ジャパンオープン2015  
が5月22-24日に行われ  
女子200m背泳ぎで斎藤  
ゆり子(体専1年)が4位  
西脇怜奈(同1年)が5位  
に入賞した。

斎藤はスタート後には  
若干の遅れがあったもの  
の、徐々にペースを上げ  
150m地点では3位につ  
けていた。だが「3位にな  
れると意識し過ぎ、残り50  
mで力んでしまった(斎  
藤)。スピードを上げられ  
ず後続の選手に抜かれ、3  
位から0.5秒差でフィ  
ニッシュ。僅差で表彰台に  
は届かなかった。西脇は斎  
藤にリードして50m地点を  
ターントしたが、それ以降は  
斎藤を追い越した。斎藤から  
0.61秒遅れてゴールした。  
斎藤は「ベストに近いタ  
イムで泳げた良かった。表  
彰台に立てなかったのは悔  
しいが、落ち込んででも仕方  
がない。9月のインカレで  
チームに貢献できるように練  
習したい」と話した。

◆記録ファイル  
◆体操 東日本学生選手権  
(5月22-24日、神奈川県  
立体育センター)  
【男子】▽団体総合113  
位▽個人総合 宮地秀享  
(体専3年) 117位▽跳馬  
榊原颯太(同4年) 114  
位、星野力維(同3年) 11  
5位▽平行棒 星野力維 11  
6位▽鉄棒 宮地秀享 113  
位【女子】▽団体総合113  
位▽個人総合 井上和佳  
奈(同2年) 114位▽段違  
い平行棒 井上和佳奈 112  
位、山元加奈子(同2年) 11  
7位▽平均台 井上和佳  
奈 114位、新井菜央(同1  
年) 117位

◆漕艇 全日本重量級選  
手権(5月22-24日、戸田  
漕艇場)  
【男子】▽ダブルスカル  
木村光里(同3年)、小  
原有賀(同2年) 11優勝  
◇東日本選手権(6月27  
-28日、戸田漕艇場)  
【男子】▽シングルスカ  
ル 越智寛太(同4年) 11  
優勝▽舵手無しクワドルフ  
ル 碓合駿寛(体専3年)、  
岡崎俊樹(心理3年)、中  
筋来入(工シス3年)、古  
原将暉(体専1年) 118位  
【女子】▽舵手付クワド  
ルフル 木村光里(同3  
年)、小林愛実(比文3年)、  
小原有賀、棚橋秀美(同1  
年) 115位



関東大学新人戦

# 2連覇 王者の貫禄

## 決勝 後半で流れつかむ

【国立代々木第二体育館(東京都渋谷区)で大西美雨(社会学類2年、写真も)関東大学新人戦が5月30日から6月14日にかけて行われた。昨年の優勝校として臨んだ筑波大は決勝で早稲田大と対戦。84-73で勝利し2連覇、通算10回目の優勝を果たした。新人王に波多智也(体専1年)、優秀選手賞に杉浦佑成(同2年)と馬場雄大(同2年)が選ばれた。



巧みなドリブルで相手を交わす、新人王に輝いた波多(6月14日、決勝の早稲田大戦で)

### バスケット

初の優勝を狙った早稲田大を相手に、筑波大は王者の貫禄を見せた。前半は互いに譲らず競り合う展開となったが、後半に入ると筑波大が一気に突き放した。第1ピリオド、筑波大は杉浦を中心に攻め立て一時は5点をリードしたが、早稲田大も譲らず3連続ゴールで逆転を許した。だが和田直毅(同2年)の3ポイントシュートで形勢を立て直すと再び逆転し、22-19で第1ピリオドを終えた。第2ピリオドは序盤から馬場の連続得点で点差を広げた。だが終盤、早稲田大に3ポイントシュートを連続で決められ、37-36で前半を折り返した。ハーフタイムに「ディフェンスから走る」というチームの原点に戻ろう(馬場)とチームで話し合う

# 7勝7敗で4位 ベストナインに水野

首都大学1部



4割8厘の高打率を記録し、ベストナインを獲得した水野(5月24日、桜美林大戦で) = 森脇慎撮影

### 野球

【バッティングバレー石スタジアムひらつか(神奈川県平塚市)で山本勇太(社会学類1年)4月に行われていた首都大学春季1部リーグの最終戦が5月24日に行われ、筑波大は桜美林大に3-0で勝利した。最終成績は7勝7敗で、昨年の秋季リーグから順位を一つ落とし4位だった。4割8厘の高打率を記録した外野手の水野将吾(体専4年)がベストナインを獲得した。

桜美林大戦では、4回まで何度かランナーを出しても得点できずにいた。だが5回に四球と安打で5死満塁のチャンスを作ると、4番の國井伸二朗(同4年)が低めの変化球を捉えて右前に先制の2点適時打を放った。更に代打の竹田英樹(同3年)が内野安打で1点を加えこの回3点を挙げた。先発投手は公式戦初登板となった川崎朝太(同1年)。3回以外は毎回ランナーを背負うも、緩急を使った粘投で6回を3安打無失点に抑えた。7回からは石黒敦也(同3年)が安定した制球で打者9人を完璧に抑え、完封リレーでシーズンを締めくくった。川村卓監督(体育系・准教授)は「最後に1勝でき

### テニス

## 有明国際 牛島が優勝

東京有明国際女子オープンが、5月31日から6月7日にかけて有明テニスの森公園(東京都江東区)で行われ牛島里咲(体専1年)が優勝した。同大会は全英オープン(ウィンブルドン)などの世界ツアー公式戦の下位大会。国内外の若手の有力選

## 男子走り高跳び 平松が1位 女子23年連続優勝

### 陸上

#### 関東学生対校選手権

関東学生対校選手権が5月14-17日に日産スタジアム(横浜市港北区)で開催された。女子は投てき競技で他校を突き放し、23年連続となる総合優勝を果たした。男子は走り高跳びで平松祐司(体専1年)が世界陸上(8月22-30日・北京)の参加標準記録を超える2位28を跳び1位になるなど健闘、昨年から順位を一つ



5月16日の関東学生対校選手権決勝。世界陸上の参加標準記録の2位28を跳んだ。18歳以下の日本記録でもあり、跳躍の直後、喜びのあまり飛び出た特大のジャンプで再び会場を沸かせた。人生で最高の跳躍だったと振り返る。

男子走り高跳びで平松祐司(体専1年)が世界陸上(8月22-30日・北京)の参加標準記録を超える2位28を跳び1位になるなど健闘、昨年から順位を一つ上げ総合4位だった。女子はハンマー投げで勝山舞(同3年)が56kg85で、久世生宝(同3年)がやり投げを55kg25でそれぞれ制するなど、投てき競技4種目で7人が入賞。また走り高跳びで寺谷諭美(同1年)が1m74で優勝したほか、松本奈奈子(同1年)が400kgで3位、更にメジャーとして4x400mリレーを制するなど、1年生の活躍が目立った。男子は平松が走り高跳びで優勝したほか、津田修也(同4年)が3000kg以降書で2連覇を達成。また三段跳びで犬井亮介(同2年)が15kg78で2位、山下航平(同3年)が15kg74で第3位と好成績を収めた。平松は「こんなに高く跳べるとは思わなかった。男子の成績は自分の競技手ではあまり奮わず流れが悪かったが、自分で断ち切れたい」と語った。そのほかの主な入賞者は次の通り。

## 女子春季リーグ優勝

### バレー

10大学総当たりで戦う春季関東大学女子1部リーグが全日程を終了し、筑波大は8勝1敗(勝率0.888)で6年ぶりの優勝を果たした。最優秀選手賞、会長特別賞に帯川まゆ(体専4年)が、サーブ賞に井上愛里沙(同2年)が、レシーブ賞に朝日優衣(同3年)が選ばれた。また秋季リーグでは全勝して弾みをつけ、最大目標の全日本インカレで優勝したいと今後の抱負を語った。(林健太郎)

は中学3年生。当時はサッカー部だったが、足が速くなりたかったため、陸上部の練習にも参加していた。ある日、その跳躍力に目をつけた顧問の先生に「お前は日本一になれる」と高跳びの世界に誘われた。言われたままに練習を始めた



走り高跳びで世界選手権日本代表

## 平松祐司(体専1年)

3年生時のインターハイでは、2m19を跳んでついに日本一に輝いた。「自分で考えた練習ができる」という理由から筑波大に入学。けがをしないようびびり練習

が、やればやるほど記録が伸び、「自分の能力の限界を感じない競技だ」と魅力を感じるようになった。だがこの大会の直後に足の靭帯を負傷すると伸び悩んだ。「焦りがけがを悪化させた。苦しい日々だった」。思い切って完治するまで待ち練習を再開すると、調子を取り戻した。2年生のインターハイでは2m10を跳び、1年ぶりに自己ベストを更新。6月27日の日本選手権では3位入り、8月22日から開催される世界陸上(中国・北京)への出場が決まった。「予選を通過し、決勝の舞台で勝負したい」と意気込む。目標は来年のリオデジャネイロ五輪出場と、5年後の東京五輪でのメダル獲得。無限の可能性を秘めたその足で、世界の頂点へ飛躍する。(大西美雨(社会学類2年)写真は本人提供)

## 才能磨き 未来へ跳躍

才能磨き 未来へ跳躍



# 「使用料一律は不平等」

## 自己負担で設備改良も検討を

**藤井准教授**  
筑波大学の学生宿舎は老朽化などが原因で、2年以上継続して入居を希望する学生が近年減少している。宿舎の住み心地を改善し、入居者の満足度を上げる手段はあるのか。都市計画などが専門の藤井准教授(シス情系)に話を聞いた。

「住環境」の評価は時代と共に変化する。今は「古い、狭い」と言われる宿舎だが、約40年前の設置時は「ぜいたくすぎる」という声さえあった。木造の平屋に住む人も多い中、大学がコンクリート造りで個室が完備された住居を学生に提供するのは異例だった。今は生活水準が上がると、相対的に宿舎の住環境は低く評価されている。40年前の建築物の住環境を現代の水準に合わせるのには難しいが、使い方や住居選択方法には改善の余地がある。

例えば、通常の集合住宅では部屋の階数で家賃に差がつくが、宿舎では入居者が部屋を選べず、どの階も使用料が一律だ。宿舎にエレベーターがなかったり、5階の部屋にはエアコンが設置できないなど上階ほど利便性が低く、これでは不公平だろう。上階の使用料を安くするのが妥当だ。更に、学生がある程度部屋を出せるようにすれば「家賃をなるべく安く抑えたい」「多少高くても住みやすい部屋がいい」といった学生の要求に合わせやすくなる。家賃の差額の設定や、学生を部屋に振り分ける仕組みを構築するのは手問がかるが、不可能ではないはずだ。

設備の改善には、UR都市機構が管理する「DIY住宅」を参考にしている。一定範囲内ならば居住者の自己負担で部屋の設備の改良が認められている。改良の例は壁紙の張り替えや収納の設置など

# 宿舎を問う

原則、改良した設備は退去時に元に戻さなくてはならない。宿舎でも同様の制度を作れば、大学が資金を出さずに部屋の設備を改善でき、入居者の満足度も向上するはずだ。

だが建築物を永久に使うことはできないため、将来的には宿舎の建て替えが必要だ。近年、筑波大周辺にアパートが増えたり、つくばエクスプレスの開通で実家から通学しやすくなるなど居住形態の選択が増えた。大学は現在の宿舎を取り巻く状況を再認識し、規模縮小も含め宿舎のあり方を検討すべきだ。

環境を現代の水準に合わせるのには難しいが、使い方や住居選択方法には改善の余地がある。

例えば、通常の集合住宅では部屋の階数で家賃に差がつくが、宿舎では入居者が部屋を選べず、どの階も使用料が一律だ。宿舎にエレベーターがなかったり、5階の部屋にはエアコンが設置できないなど上階ほど利便性が低く、これでは不公平だろう。上階の使用料を安くするのが妥当だ。更に、学生がある程度部屋を出せるようにすれば「家賃をなるべく安く抑えたい」「多少高くても住みやすい部屋がいい」といった学生の要求に合わせやすくなる。家賃の差額の設定や、学生を部屋に振り分ける仕組みを構築するのは手問がかるが、不可能ではないはずだ。

設備の改善には、UR都市機構が管理する「DIY住宅」を参考にしている。一定範囲内ならば居住者の自己負担で部屋の設備の改良が認められている。改良の例は壁紙の張り替えや収納の設置など

### 記者の目

筑波大学は、平砂地区に留学生と日本人学生のシェアハウス型宿舎「インターナショナルハウス(仮称)」を新設するほか、短期滞在の留学生向けに今後1の矢地区の宿舎棟5棟を改装するなど、留学生支援を基本に宿舎の整備を進めている。だが、留学生用の宿舎整備に比重を置く大学の方針に、私は異議を唱えたい。

本紙は4月、学生宿舎の老朽化が進み、学生が



最も老朽化が進む平砂未改修棟の部屋 (4月3日撮影)

私に異議を唱えたい。本紙は4月、学生宿舎の老朽化が進み、学生が

## 留学生との格差是正を

### 留学生の目



キム・ドンヒョク

スガ新設された後、既存の棟の環境の悪さが際立つのは避けられない。大学は、留学生だけでなく日本人学生も気持ちよく住めるよう、早急に対策を打つべきだが、その際、藤井准教授の意見を参考にしたい。どうか、同准教授は、階数などにより環境に差がありながら、学生が部屋を選べない現状の問題点を指摘。部屋によって家賃を変えたり、入居者が部屋の設備を自由に改良できるようにする制度の導入を提案した。

この提案の利点は、日本人用宿舎の改修や新設が予算的に厳しい中、比較的実施しやすいことだ。日本人学生の不公平感を少しでも軽減する取り組みを期待したい。(添島香苗、写真も)

## 筑波大に誇り持って

「Imagine the future」の言葉を胸に、自分ももっと頑張ります。(社会学類特別聴講生 韓国籍出身、原文も日本語)

初めて来日した時、春だと思って油断していましたが、つくばの4月は結構寒かった気がします。7日には雪が降り、びっくりして冬服を送ってもらいました。

ですが、春学期が始まるころには、寒さなど感じられないほどの筑波大学のキャンパスの熱気に圧倒されました。特に、学力至上主義が蔓延し、生活活動に厳しい韓国と違い、日本の学生のサークル活動はあまりにも活性化しています。

自由時間には、「ほぼそこに住んでいる」と言われるほど、中央体育館の第1・第2トレーニング場で、頭にタオルを巻かれています。

最初は少し迷いましたが、今では一番良い選択だったと思っています。講義形式の授業と違い、サークル活動をしながらも皆さんと触れ合いながら勉強できるという、素晴らしい経験をしています。皆さんも、外国に語学以外の勉強のために留学に行くのでしたら、おススメです。

自由時間には、「ほぼそこに住んでいる」と言われるほど、中央体育館の第1・第2トレーニング場で、頭にタオルを巻かれています。

## ネパール震災支援イベント開催

### 来場者に募金呼びかけ



イベント後、募金に協力する参加者(5月22日、3A棟で)

### 被災地が舞台の映画上映

今年4月に起きたネパール大震災で被災した人々を支援するため、映画を上映

22日に3A棟で行われた。イベントを主催したのは、筑波大学の学生団体「CLOVER」。CLOVERは、難民申請者が住する東日本入国管理センター(茨城県牛久市)を定期的に訪れ、収容者に日本語指導などを行っている。ネパールは、厳しい経済状況下でも多くのチベット難民を受け入れてきた国だが、震災で大きな被害を受けた。死者は8000人を超え、ネパールの人口の約3割にあたる約800万人が被災したという。

上映されたのは、ネパールが舞台の映画『オロ』。中国共産党の支配から逃れるためネパールに亡命した

## イベントでがん啓発

### 850人集まる

参加者が夜通し歩き続けることを通じ、がん患者の支援とがん啓発を呼びかける「リレー・フォー・ライフ ジャパン2015茨城」が、5月16・17日に研究学園駅前公園(つくば市学園南)で行われ、約80人のがん患者を含む約850人が参加した。

イベントは、がん患者への支援や若手医師育成のための募金の呼びかけなどが目的。公益財団法人日本対がん協会と「リレー・フォー・ライフ ジャパン茨城実行委員会」が主催し、筑波大学とつくば市が共催しており、今年で6回目の開催だ。参加者は16日の午後2時30分ごろに、「希望」の意味を込めたハトの形の白い風船200個を一斉に空へ放ち、ウォーキングを開始。17日午前11時ごろまで、1周約5000メートルのコースを、「がんを負けない社会を作ろう」と書かれた横断幕を掲げながら、笑顔で絶えず交代で歩き続けた。

16日夜にはがん患者によるトークイベント「サイバ



がんの啓発をする参加者(5月16日、研究学園駅前公園で)

「事前手配などが大変だったが、『来年もここで会おうと思うからがんの手術や治療を頑張れる』という参加者の言葉が背中を押した。このイベントがずっと続いてほしいと話した。(深作歩美、写真も)

## 散歩で防犯活動

### 来年度も継続へ

犯罪防止や市民の防犯意識の向上を目的に、ジョギングや散歩しながら防犯活動を行う「ジョギングパトロール(ジョグパト)」が、今年も継続されること

7月のジョグパトは24日15時から1アスつくば(つくば市研究学園)周辺で行われる予定だ。問い合わせはつくば市危機管理課(つくば市研究学園、電話・029-883-1111)。

(栗山菜帆子 障害科学類2年)

2000人の参加者を募集したという定員に達した。同署によると、今年は更に多くの参加者を募集している。

同署は「自分の都合に合わせて無理なく活動できることが魅力。学生もぜひ参加してほしい」と呼びかけている。



# 求められる駐輪マナー

## 視覚障害者「怖い」

### 点字ブロック阻む

筑波大学の自転車の駐輪マナーの悪さが深刻化している。駐輪禁止スペースや点字ブロック上に自転車を停める学生が多く、災害時の避難経路の妨げになるだけでなく、障害を持つ学生の大きな負担にもなっている。学内を歩き、駐輪マナーの実態やその改善策を探った。(小宮山瑛生、山本勇太(社会学類1年、新田明夏(同3年))



「はみ出し自転車」を駐輪場に移す学生(6月15日、3A棟前で) = 小宮山瑛生撮影

6月15日の昼休み、第二・第三エリアで定点観察をした。すでに駐輪場は満杯。視覚に障害のあるスーダン出身の留学生ヒシャム・エルセル・ヒラル・サリさん(障科3年)は「学内通路にはみ出して駐輪する人もいた。」

## 中庭作り通路を確保



白岩善博教授

白岩善博教授(生環系)は2011年に生命環境系長に就任後、災害時の避難経路などの整備を、第二エリアを中心に行っている。白岩教授が整備を始めた当初、2C棟付近では避難経路まではみ出した駐輪自転車が多かった。だが、同教授らは東日本大震災の後、避難経路の重要性を再確認。同教授は「震災はいつ起きるかわからない。自転車が避難経路の障害になっている状況のままでは、助かる命も助からない可能性がある」と話す。そこで白岩教授が目を付けたのは「普段から歩行者がよく利用する場所。そうした場所が「避難経路」に向いている(同教授)ため、今年3月に大学の協力を得て第二エリア倉庫裏の中庭を整備。フェンスを設け、自転車を止めつらにした。更に、中庭に点字ブロック付きの避難経路を整備。多くの歩行者が常に利用することで災害時に「迷わず避難できる道」として活用されることを狙った。幅広く直線の通路とし、車椅子を利用する学生にも配慮した。駐輪マナーについても同様の考えで改善を目指した。以前、2C棟の階段付

椅子を使用している山ノ上奏さん(同1年)は「スロープの下に自転車が置いてあり、降りられなかったところがある」と話す。障害学生支援室によると、同室は第一・第二・第三エリア/外国語センター/中央図書館周辺で学生や学生生活課の職員とともに駐輪マナーの徹底を呼びかけるキャンペーンを実施。同キャンペーンでは、ビラを使って注意喚起し、「はみ出し自転車」を二台ずつ駐輪場に移す活動も行う。だが、「しばらくすると元通り。同じことの繰り返しだ(学生生活課職員)。同課では「始業際に来る学生が急いで講義棟の近くに止めることが多いので、授業には余裕を持って来てほしい」と訴えた。



点字ブロック付きの避難路と中庭 = 生命環境エリア支援室提供

## 写真コンテスト展覧会 筑波大の風景を収める



写真を熱心に見つめる来場者(6月15日、大会館で)

筑波大学周辺で撮られた写真を募集するT・ACTの企画「筑波大学写真コンテスト」が15日、大会館総会交流会館で行われた。応募作品全94点が展示され、筑波大のさまざまな風景をとらえた写真が展示室を飾った。写真コンテストは、普段何気なく見ている筑波大の景色を写真に収め、より多くの人と共有することが目的。自由写真部門、人物写真部門、スマホ部門の3部門がある。筑波大出身の写真家、青山裕佳さん(平成16年度人間学類卒)や永田恭介学長らが審査員を務め、18作品に賞が贈られた。自由写真部門で青山賞を受賞したのは三隅幸さん(芸専3年・ペンネーム「蒼」)。松美池周辺で大学の自然豊かな様子を撮影した。人物写真部門では待治遥さん(芸専4年)の「習う」ともある。6月13・14日に1E棟で行われた自主開催ライブの1日目に足を運んだ。18組のバンドが出演し、日本のロックバンドのライブに向け、演奏技術の向上に励む。毎週水曜のミーティングでライブに関する連絡などを取り、練習はバンドごとに進行。授業の合間に自主練習をしたり、ライブ直前には大学周辺のスタジオで深夜まで練習。完成度の高いパフォーマンスを披露する構成員たち(6月13日、1E棟で)



完成度の高いパフォーマンスを披露する構成員たち(6月13日、1E棟で)

## E.L.L. (筑波軽音楽協会)

### ライブ通し絆深める

ある日の放課後、文化系サークル会館の1室に、ギターやドラムの奏でる軽快な音で、ボーカルの力強い歌声が響き渡っていた。和気あいあいと、かつ真剣に練習に取り組む姿があった。現在、126人の構成員を抱える。筑波大学には5つの軽音楽サークルがあるが、その中で最大規模を誇る。構成員同士で自由にバンドを組み、主にロック音楽を演奏。月1〜2回

間に自主練習をしたり、ライブ直前には大学周辺のスタジオで深夜まで練習。完成度の高いパフォーマンスを披露する構成員たち(6月13日、1E棟で)

「ELEGANT」や「ONE OK ROCK」などの曲を演奏

「ライブ通し絆深める」... 完成度の高いパフォーマンスを披露する構成員たち(6月13日、1E棟で)...

## 春季スポーツデー

8400人が参加 春季スポーツデーが5月16-17日に陸上競技場などで行われた。2日間で計約8400人が参加し、初夏の暑さの下汗を流した。学生委員会が用意したオリジナルスポーツなどで遊ぶ「学生委員会企画」では水風船をぶつけ合う「水合戦」など15種目が行われた。水合戦の会場では、参加者はびしょぬれになりながらゲームを楽しんでいた。サークルの友人たちと水合戦に参加した千葉裕平さん(社会学2年)は「仲間との親睦を深められたと思う」と笑顔で話した。(山野辺拓実)



# Who's Who?

タタール語オリンピックで入賞

## 中村瑞希さん(人文4年)



タタールの帽子をかぶる中村さん(タタールスタン共和国首都カザンで) = 本人提供

今年4月、ロシアの首都・モスクワの東南に位置するタタールスタン共和国へ渡り「国際タタール語・タタール文化オリンピック」の本選に臨んだ。タタール語はタタールスタン共和国などで使われる言語で、800万人程度が使用されると言われる。同大会はタタール語の知識や民謡などの技能を競うもので本選には約500人が参加。唯一のタタール語を母語としない出場者だったが見事入賞し、現地の人々を驚かせた。

日本語の魅力は、見知らぬ地域でも言語を通して現地の人々の思想や文化に触れ、自分の世界観が豊かになることだ。例えばウズベク語で「雲の空を渡る鳥」は、日本語の「雲天」とは違い、「緑が生い茂り、そろそろ農作業を始めようか」という季節感を内包している。そうした単語一つを知ることも、自分の世界が広がる。知らない世界をのぞけることが、言語を学ぶ続ける動機になった。

## 大会唯一の日本人入賞 言語で未知の世界のぞく

問題を解く形式で、世界中から1万人以上が参加。通過者は約500人と狭き門だったが、無事合格し今年4月の現地での本選に進んだ。本選では、タタール語の知識を問う筆記・口述試験に加え、実技試験としてタタール語での歌唱や踊り、そして自分の故郷についてのプレゼンテーションが課された。審査員と観客の前に行った実技試験では、日本の着物にタタールの伝統的な帽子を被って登場し、つくばを「石を投げれば研究者に当たる」とユーモアを交えて紹介。また、人生への嘆きを描いたタタールの民謡を哀愁たっぷりに歌い上げ、会場は大いに盛り上がったという。タタール語を母語とする他の参加者と言語力で勝負するのは厳しい。その分、日本人であることをアピールして差をつけようと思った」と振り返る。

入賞者35人の中で、唯一の日本人として脚光を浴びた。15件もの取材を受け、現地の新聞は「日本人でさえもタタール語を話す。何たる衝撃だ」と大々的に報道。出場者などから何度も何度も、一緒に写真を撮ってほしいと依頼された。英語はもちろんロシア語、タジク語など、今まで学んだ言語は10以上。白地図上で、学んだ言語が使われている地域に色を付けている。夢は世界の全ての国に色を塗ること。現在は、クムク語というロシアの1地域で話される言語を学ぼうと教材を探している。アフリカの言語にも興味があるという。言語を学ぶ中で知った外国の料理を食べるのも楽しみの一つだ。特に気に入っているのは「プロフ」というウズベキスタンの伝統的な米料理。羊肉やニンジンなどの具とニンニクがたっぷり入ったピラフのような料理で、自分でもよく作る。

「一つの言語を学んでいるときは、恋をしたような感覚。ただ習得するのはなく、その文化的側面にも目を向きたい」(田中開二教育学科2年)

「一つ一つの言語を学んでいるときは、恋をしたような感覚。ただ習得するのはなく、その文化的側面にも目を向きたい」(田中開二教育学科2年)

「一つ一つの言語を学んでいるときは、恋をしたような感覚。ただ習得するのはなく、その文化的側面にも目を向きたい」(田中開二教育学科2年)

「一つ一つの言語を学んでいるときは、恋をしたような感覚。ただ習得するのはなく、その文化的側面にも目を向きたい」(田中開二教育学科2年)

「一つ一つの言語を学んでいるときは、恋をしたような感覚。ただ習得するのはなく、その文化的側面にも目を向きたい」(田中開二教育学科2年)

「一つ一つの言語を学んでいるときは、恋をしたような感覚。ただ習得するのはなく、その文化的側面にも目を向きたい」(田中開二教育学科2年)

「一つ一つの言語を学んでいるときは、恋をしたような感覚。ただ習得するのはなく、その文化的側面にも目を向きたい」(田中開二教育学科2年)

## 「大学は美味しい!!」フェア



来場者に「ライスミルク」の説明をする北村教授(左)(6月2日、新宿高島屋で) = 森脇慎撮影

2面へ

## 吹奏楽団定期演奏会



ピエロの格好に扮し会場を盛り上げる団員(6月6日、ノバホールで) = 加藤未悠撮影

3面へ

## 剣道 世界選手権



個人戦で準優勝し表彰を受ける竹ノ内佑也(5月29日、日本武道館で) = 小野憲司撮影

8面へ

## 春季スポーツ・デー



水合戦を楽しむ参加者たち(5月17日、陸上競技場で) = 山野辺拓実撮影

11面へ

学内総合

学芸

スポーツ

学生生活

### 編集後記

ついに「明るいまちづくり」協議会が発足しました。会長の大澤義明教授(シンス)は、多くの人に使われる道を重点的に明るくする方針を示しています。大澤教授は「都市計画において、捨てる勇気を持つことも重要」と言います。全ての道に街灯を設置するのは不可能なため、人がよく通る場所に優先して街灯を設置し、より多くの人が安全に歩けるようにするを目標としています。(編集長・森脇 慎二 社会学類3年)

次号は

10月5日(月)

発行予定です